

四半期報告書

(第53期第3四半期)

自 平成29年10月1日

至 平成29年12月31日

株式会社シーボン

東京都港区六本木七丁目18番12号

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況	5
---------	---

第4 経理の状況 6

1 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
注記事項	10

2 その他	12
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報 12

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第53期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社シーボン
【英訳名】	C' B O N C O S M E T I C S C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役兼執行役員社長 金子 靖代
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木七丁目18番12号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の本店業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	（044）979-1234（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役兼執行役員 管理本部担当 三上 直子
【最寄りの連絡場所】	神奈川県川崎市宮前区菅生一丁目20番8号 （シーボンパピリオン<メインオフィス>）
【電話番号】	（044）979-1234（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役兼執行役員 管理本部担当 三上 直子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第3四半期 累計期間	第53期 第3四半期 累計期間	第52期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	9,474,462	9,430,978	12,493,307
経常利益 (千円)	299,808	478,757	369,630
四半期(当期)純利益 (千円)	220,469	285,368	176,273
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	474,061	480,660	474,922
発行済株式総数 (株)	4,271,300	4,277,400	4,272,300
純資産額 (千円)	8,914,691	9,104,073	8,874,440
総資産額 (千円)	11,200,897	11,537,143	11,243,993
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	53.98	69.70	43.14
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	53.92	69.54	43.08
1株当たり配当額 (円)	20	20	40
自己資本比率 (%)	79.5	78.9	78.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	318,113	527,279	638,669
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	80,535	△334,733	△50,432
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△126,582	△161,436	△126,747
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	2,191,840	2,412,361	2,381,248

回次	第52期 第3四半期 会計期間	第53期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	48.04	31.11

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、持分法を適用すべき重要な関連会社を有しておりませんので、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。
4. 当社は、従業員持株会信託型E S O P制度を導入しており、当該信託にかかる従業員持株会信託口が所有する当社株式については、財務諸表において自己株式として計上しております。そのため、第52期第3四半期累計期間及び第52期の1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定にあたっては、当該株式数を自己株式に含めて「普通株式の期中平均株式数」を算定しております。なお、当該信託は第52期第3四半期会計期間において終了しております。

5. 当社は、株式給付信託（J-E S O P）制度を導入しており、当該信託にかかる株式給付信託口が所有する当社株式については、財務諸表において自己株式として計上しております。そのため、1株当たり四半期（当期）純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額の算定にあたっては、当該株式数を自己株式に含めて「普通株式の期中平均株式数」を算定しております。
6. 四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済の不確実性等先行きは不透明な状況ではありますが、企業収益や雇用環境の改善を背景に、個人の消費マインドが持ち直す等緩やかな回復基調が続いております。

こうした経営環境の中、当社は最近の業績の状況を踏まえ、進行中であった中期経営計画を見直し、平成30年3月期から平成32年3月期までの新たな3カ年中期経営計画を開始いたしました。「新たなシーボンへ革新と挑戦」を経営指針として、「新たなお客様の開拓」「現場力の向上」「より強いブランドへ」という3つの重点課題に取り組み、現状の打破と再成長に向けた道筋をたててまいります。

当第3四半期累計期間におきましては、既存店の立て直しと、顧客とのつながりを強化することによるブランドの磨き上げに注力してまいりました。集客活動においては、美容スタッフ（フェイシャリスト）とPRスタッフの連携を強化する等各店舗主導によるイベントプロモーションを強化し、店舗における集客力向上を図るとともに、Webマーケティングの強化を図っております。既存顧客に対しては、年間購入金額に応じて4つの会員ステージを整備し、ステージごとに提供するサービスの充実を図る等顧客満足度の高いサービス展開に注力するとともに、顧客情報の管理・分析を徹底することで、よりパーソナルな接客及び提案を提供する等“販売の質”の向上に努めております。

製品におきましては、新たに下記の製品を発売いたしました。

- ・ 4月：美白スキンケアライン『ホワイト』シリーズより、化粧水、美容液、クリームに非売品の日やけ止め乳液『ブライトアップUVミルク』をプラスした『FWセット』を数量限定で発売。
- ・ 5月：紫外線等によるダメージ肌に働きかけるスペシャルケアセット『SPA04』を期間限定発売。
- ・ 6月：エイジングケアライン『コンセントレートプラス』シリーズより、エイジングケアと美白を同時に適える薬用美白美容液『ホワイトセラム』を新発売。
- ・ 7月：おいしくカラダをサポートする酢飲料『酵素美人』シリーズより、スッキリさわやかな甘さの『酵素美人一橙』（マンゴー味）を数量限定で発売。
- ・ 10月：さまざまな肌悩みに合わせて選べる薬用美容液『MD』シリーズより、うるおいに満ちたみずみずしい肌へ導く保湿美容液『CH エッセンスMDS』をバージョンアップ。
肌本来が持つ美しさを引き出すベーシックケアライン『フェイシャリスト』シリーズより、14日分のクレンジングクリーム、酵素洗顔料、洗顔フォーム、化粧水、保湿クリームにクレンジングタオルをプラスした『トライアルキット』を発売。
- ・ 11月：秋冬の厳しい乾燥をトータルケアし、スッキリ引き締まった印象の肌へ導くスペシャルケアセット『SPA07』を期間限定発売。
今秋に収穫された巨峰ストレート果汁を使用した酢飲料『葡萄美人』を数量限定で発売。
- ・ 12月：黄金生姜・大生姜を配合した酢飲料『酵素美人一金』を数量限定で発売。

以上の販売活動を実施し、直営店舗における売上高は9,144,588千円（前年同期比0.1%減）となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高9,430,978千円（前年同期比0.5%減）となり、利益面においては、販売促進費や通信費等の経費効率の改善に努め、営業利益448,327千円（前年同期比68.0%増）、経常利益478,757千円（前年同期比59.7%増）、四半期純利益285,368千円（前年同期比29.4%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ31,113千円増加し、当第3四半期会計期間末には2,412,361千円（前年同期比10.1%増）となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は527,279千円（前年同期比65.8%増）となりました。これは主に、税引前四半期純利益467,756千円、減価償却費233,418千円、売上債権の増加140,434千円、たな卸資産の減少79,155千円、法人税等の支払額148,327千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は334,733千円（前年同期は80,535千円の資金を獲得）となりました。これは主に、有価証券の取得による支出100,000千円、有形固定資産の取得による支出152,455千円、子会社株式の取得による支出80,000千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期累計期間において、財務活動の結果使用した資金は161,436千円（前年同期比27.5%増）となりました。これは主に、配当金の支払額171,196千円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社の経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発活動の金額は、146,182千円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況について重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当第3四半期累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資本の財源と資金の流動性について

当第3四半期累計期間において、資本の財源と資金の流動性について重要な変更はありません。

② 財政状態の分析

（流動資産）

当第3四半期会計期間末の流動資産の残高は5,367,739千円となり、前事業年度末に比べて219,412千円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金の増加（前事業年度末比31,113千円増）、売掛金の増加（前事業年度末比140,434千円増）、有価証券の増加（前事業年度末比100,000千円増）、商品及び製品の減少（前事業年度末比78,467千円減）によるものであります。

（固定資産）

当第3四半期会計期間末の固定資産の残高は6,169,404千円となり、前事業年度末に比べて73,737千円増加いたしました。その主な要因は、建物の減少（前事業年度末比62,993千円減）、投資その他の資産の増加（前事業年度末比166,246千円増）によるものであります。

（流動負債）

当第3四半期会計期間末の流動負債は1,727,167千円となり、前事業年度末に比べて17,781千円増加いたしました。その主な要因は、未払法人税等の減少（前事業年度末比16,355千円減）、その他流動負債の増加（前事業年度末比24,578千円増）によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末の固定負債の残高は705,902千円となり、前事業年度末に比べて45,735千円増加いたしました。その主な要因は、株式給付引当金の増加（前事業年度末比40,415千円増）によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は9,104,073千円となり、前事業年度末に比べて229,633千円増加し、自己資本比率は78.9%（前事業年度末は78.9%）となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加（前事業年度末比114,485千円増）、その他有価証券評価差額金の増加（前事業年度末比104,763千円増）によるものであります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数（株） （平成29年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成30年2月9日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,277,400	4,277,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	4,277,400	4,277,400	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成30年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	5,100	4,277,400	5,738	480,660	5,738	364,560

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 200	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 4,269,900	42,699	—
単元未満株式	普通株式 2,200	—	—
発行済株式総数	4,272,300	—	—
総株主の議決権	—	42,699	—

(注) 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式19株が含まれております。

②【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社シーボン	東京都港区六本木七丁目18番12号	200	—	200	0.00
計	—	200	—	200	0.00

(注) 1. 当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、219株となっております。

2. 「第4経理の状況」以下の自己株式数は自己株式179,015株で表示しております。これは株式給付信託口が所有する当社株式178,796株を含めて自己株式として処理しているためです。

なお、株式給付信託口所有の株式178,796株につきましては、自己株式等から除外して表示しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第3項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,981,248	3,012,361
売掛金	882,499	1,022,934
有価証券	—	100,000
商品及び製品	430,258	351,790
仕掛品	70,189	90,264
原材料及び貯蔵品	447,584	426,820
その他	336,636	363,671
貸倒引当金	△90	△104
流動資産合計	5,148,326	5,367,739
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,408,054	2,345,060
土地	1,378,554	1,378,554
その他（純額）	545,532	524,715
有形固定資産合計	4,332,141	4,248,330
無形固定資産	50,369	41,671
投資その他の資産		
その他	1,736,155	1,902,402
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	1,713,155	1,879,402
固定資産合計	6,095,666	6,169,404
資産合計	11,243,993	11,537,143
負債の部		
流動負債		
買掛金	93,787	102,614
未払法人税等	127,098	110,743
ポイント引当金	438,883	436,796
役員賞与引当金	—	3,750
資産除去債務	932	—
その他	1,048,684	1,073,263
流動負債合計	1,709,386	1,727,167
固定負債		
株式給付引当金	200,821	241,236
資産除去債務	307,918	316,490
その他	151,427	148,175
固定負債合計	660,167	705,902
負債合計	2,369,553	2,433,070
純資産の部		
株主資本		
資本金	474,922	480,660
資本剰余金	358,822	364,560
利益剰余金	8,256,457	8,370,943
自己株式	△359,580	△359,699
株主資本合計	8,730,622	8,856,465
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	136,646	241,409
評価・換算差額等合計	136,646	241,409
新株予約権	7,172	6,198
純資産合計	8,874,440	9,104,073
負債純資産合計	11,243,993	11,537,143

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	9,474,462	9,430,978
売上原価	1,901,884	1,900,999
売上総利益	7,572,577	7,529,979
販売費及び一般管理費		
従業員給料	2,911,776	2,807,957
その他	4,393,968	4,273,694
販売費及び一般管理費合計	7,305,744	7,081,651
営業利益	266,833	448,327
営業外収益		
受取利息	652	136
受取配当金	3,574	4,129
受取家賃	26,304	22,716
その他	3,445	4,195
営業外収益合計	33,977	31,178
営業外費用		
社宅等解約損	620	246
為替差損	326	—
その他	55	502
営業外費用合計	1,001	748
経常利益	299,808	478,757
特別利益		
固定資産売却益	1,394	869
特別利益合計	1,394	869
特別損失		
固定資産除却損	8,079	8,099
減損損失	617	3,771
特別損失合計	8,696	11,870
税引前四半期純利益	292,506	467,756
法人税、住民税及び事業税	93,690	164,138
法人税等調整額	△21,653	18,249
法人税等合計	72,037	182,387
四半期純利益	220,469	285,368

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	292,506	467,756
減価償却費	231,815	233,418
減損損失	617	3,771
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	14
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△4,057	△2,087
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	3,750
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	42,035	40,415
受取利息及び受取配当金	△4,227	△4,266
為替差損益 (△は益)	326	△3
固定資産除却損	8,079	8,099
固定資産売却損益 (△は益)	△1,394	△869
売上債権の増減額 (△は増加)	△101,840	△140,434
たな卸資産の増減額 (△は増加)	25,472	79,155
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,994	8,827
未払消費税等の増減額 (△は減少)	51,086	6,789
その他	△45,476	△32,949
小計	496,942	671,386
利息及び配当金の受取額	4,578	4,220
法人税等の支払額	△183,408	△148,327
営業活動によるキャッシュ・フロー	318,113	527,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△300,000	△300,000
定期預金の払戻による収入	500,000	300,000
有価証券の取得による支出	—	△100,000
有形固定資産の取得による支出	△133,139	△152,455
無形固定資産の取得による支出	△15,113	△1,600
子会社株式の取得による支出	—	△80,000
敷金及び保証金の差入による支出	△18,647	△11,373
敷金及び保証金の回収による収入	57,470	20,502
その他	△10,034	△9,807
投資活動によるキャッシュ・フロー	80,535	△334,733
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の売却による収入	45,746	—
自己株式の取得による支出	—	△119
配当金の支払額	△169,933	△171,196
ストックオプションの行使による収入	—	10,504
その他	△2,396	△624
財務活動によるキャッシュ・フロー	△126,582	△161,436
現金及び現金同等物に係る換算差額	△326	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	271,739	31,113
現金及び現金同等物の期首残高	1,920,100	2,381,248
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,191,840	※ 2,412,361

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(株式給付信託 (J-E SOP))

当社は、平成25年10月31日開催の取締役会において、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気の向上と福利厚生制度の拡充を目的として、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託 (J-E SOP)」(以下「本制度」といい、本制度に関してみずほ信託銀行株式会社と締結する信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。)を導入すること及び本信託の設定時期、金額等の詳細について決議しております。この導入に伴い、平成25年11月13日付で資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)(以下、「株式給付信託口」)が当社株式178,900株を取得しております。

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し勤続年数等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権の取得をしたときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

当該本信託については、総額法を適用し、当第3四半期会計期間末に株式給付信託口が所有する当社株式は、四半期貸借対照表の純資産の部に自己株式として表示しており、計上額は359,201千円、株式数は178,796株であります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	2,791,840千円	3,012,361千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△600,000	△600,000
現金及び現金同等物	2,191,840	2,412,361

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月16日 取締役会	普通株式	85,422	20	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	85,422	20	平成28年9月30日	平成28年11月30日	利益剰余金

- (注) 1. 平成28年5月16日取締役会の決議に基づく1株当たり配当額は、創立50周年記念配当20円であります。
2. 平成28年5月16日取締役会の決議に基づく配当金の総額には、従業員持株会信託口に対する配当金588千円及び株式給付信託口に対する配当金3,575千円を含めております。
3. 平成28年10月31日取締役会の決議に基づく配当金の総額には、株式給付信託口に対する配当金3,575千円を含めております。

II 当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月15日 取締役会	普通株式	85,441	20	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	85,441	20	平成29年9月30日	平成29年11月30日	利益剰余金

- (注) 1. 平成29年5月15日取締役会の決議に基づく配当金の総額には、株式給付信託口に対する配当金3,575千円を含めております。
2. 平成29年10月31日取締役会の決議に基づく配当金の総額には、株式給付信託口に対する配当金3,575千円を含めております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

当社は、化粧品及び医薬部外品の製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	53円98銭	69円70銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	220,469	285,368
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	220,469	285,368
普通株式の期中平均株式数(株)	4,084,159	4,094,131
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	53円92銭	69円54銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	4,396	9,704
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

- (注) 1. 従業員持株会信託口が所有する当社株式(前第3四半期会計期間末1株)については、四半期貸借対照表において自己株式として処理していることから、普通株式の期中平均株式数は当該株式の数(前第3四半期累計期間8,186株)を控除して算定しております。なお、当該信託は第52期第3四半期会計期間において終了しております。
2. 株式給付信託口が所有する当社株式(前第3四半期会計期間末178,796株、当第3四半期会計期間末178,796株)については、四半期貸借対照表において自己株式として処理していることから、普通株式の期中平均株式数は当該株式の数(前第3四半期累計期間178,796株、当第3四半期累計期間178,796株)を控除して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成29年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………85,441千円

(ロ) 1株当たりの金額……………20円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成29年11月30日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成30年2月7日

株式会社 シーボン

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向 眞生 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 敬子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シーボンの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第53期事業年度の第3四半期会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シーボンの平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。